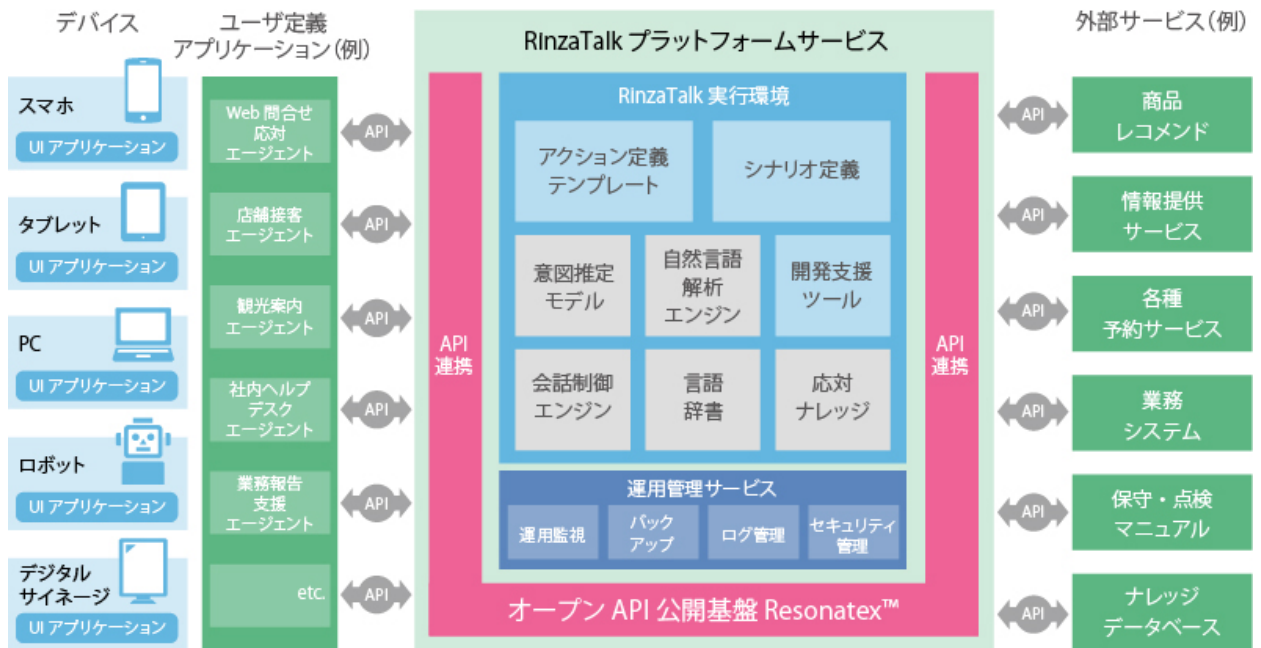


2018年3月30日

日本ユニシス
知的エージェント実行運用のためのマネージドサービス
「RinzaTalk®プラットフォームサービス」を販売開始
 ～ 外部サービスとのAPI連携によりビジネスエコシステム創出を支援 ～

日本ユニシスは、AI（人工知能）関連技術による知的エージェント構築フレームワーク「RinzaTalk」で開発した、知的エージェントの実行運用のためのマネージドサービス^(注1)「RinzaTalkプラットフォームサービス」を4月9日から販売開始します。「RinzaTalkプラットフォームサービス」は、セキュアで安定した知的エージェント運用を提供するとともに、クラウド型API管理を通じて、さまざまな外部サービスとの連携によるビジネスエコシステム[®]の創出を支援します。



【背景】

昨今のビジネス市場では、ビジネスや暮らしにイノベーションを起こす推進力としてのAI関連技術への期待は堅調であり、中でも音声応答や文字によるチャットなど、知的エージェントの業務利用が採用検討の多数を占めています。また最近では、AI関連技術の利用目的に「オフィスワークの生産性向上」、「サービス業務における労働力補完」、「熟練者の知識や技能継承」など、具体的な業務課題や社会課題を掲げる例が増えており、知的エージェントの業務利用においても、単なるチャットボットではなく、課題解決のために様々な外部サービスと連携可能な仕組みが求められています。この市場の期待に応えるべく、日本ユニシスは、知的エージェントと外部サービスを柔軟に連携し、顧客企業・団体の課題解決とビジネスエコシステムの創出を支援するマネージドサービス「RinzaTalkプラットフォームサービス」を4月9日から販売開始します。

【RinzaTalkプラットフォームサービスについて】

「RinzaTalk」を利用して構築した知的エージェントの実行運用環境を、運用管理とともにクラウド型で提供するマネージドサービスです。日本ユニシスのオープン API 公開基盤「ResonatexTM (注2)」を通じて、さまざまな外部サービスとの連携が可能になります。

主な特徴は以下のとおりです。

1. 知的エージェントと外部サービスのAPI連携によるビジネス課題の解決

オープン API 公開基盤「Resonatex」を通じて、知的エージェントと「業務システム」、「ナレッジデータベース」、「情報提供サービス」等の外部サービスを API 連携することで、「オフィスワークの生産性向上」、「業務熟練者の知識継承」、「人とロボットの業務分担」、「新サービスの創出」など、知的エージェントを通じた具体的なビジネス課題の解決を支援します。

2. 多様なユーザインタフェースでの知的エージェント展開

知的エージェントのユーザインタフェースについては、Web アプリケーション、モバイルアプリケーション、コミュニケーションロボット、デジタルサイネージなど多様な利用形態で公開することができます。また、知的エージェント API の利用実績の把握やそれを用いた課金型ビジネスの展開を可能にします。

3. セキュアで安定した稼働環境と運用サービス

セキュリティを担保しつつ可用性の高いクラウド型の稼働環境を提供します。また、システム監視やデータのバックアップなどの運用サービスを合わせて提供します。顧客企業・団体は、個別に稼働環境やシステム運用体制を用意する必要がありません。

4. RinzaTalk 機能強化の適用

「RinzaTalk プラットフォームサービス」で稼働する知的エージェントに対しては、RinzaTalk の機能強化（バージョンアップ）を継続的に適用します。顧客企業・団体側でバージョンアップ作業を行う必要はありません。

<提供開始時期> 2018年4月9日（運用管理サービス提供は6月1日開始予定）

<提供価格> 初期費用 100万円および月額 60万円から

【参考：知的エージェント構築フレームワーク RinzaTalk について】

日本ユニシスのオープンな AI 関連技術体系「Rinza[®]」から生まれた知的エージェント構築フレームワークです。日本ユニシスの自然言語処理技術、機械学習技術と、ビジネスエコシステムを構成するパートナーから提供されるクラウドサービスやソフトウェアを適材適所に組み合わせ、人間が行うような「認識」「理解」「判断」「行動」を実現します。人との対話を通じて知識の集積と活用を行うことができ、コールセンターやヘルプデスクの自動応対や要員支援、店舗における売場案内、SNS の自動応答チャットなど、ユーザとの多様なコミュニケーション接点に応じた知的エージェントを導入することができます。

特徴は以下のとおりです。

1. スモールスタートが可能

「RinzaTalk プロトタイプ開発サービス」で、あらかじめ定義された作業項目に沿って速やかにプロトタイプを開発できます。「RinzaTalk プラットフォームサービス」を利用することで、顧客企業・団体で個別の稼働環境や運用体制を準備する必要がなく、コスト的にもスモールスタートが可能です。

2. 自然言語処理の辞書、会話スクリプトのメンテナンスが容易

自然言語処理のための辞書、会話スクリプトともに GUI（グラフィカル・ユーザ・インタフェース）を利用した柔軟なメンテナンスが可能で、プログラミングの手間がかかりません。

3. 一問一答に加え、対話応答型のシナリオも可能

一問一答の検索型での応答だけではなく、会話意図や条件などを定義することで対話型シナリオを容易に実装できます。

4. 多様な業務に適用可能

多様なデータソース、業務サービスと連携するための機能により、知的エージェントを多様な業務に適用できます。

【今後の予定】

今後日本ユニシスは、「RinzaTalkプラットフォームサービス」を利用する顧客企業・団体による知的エージェントサービスの創出を推進するとともに、これらサービス間の API 相互利用やデータセットおよび学習モデルの共有のためのハブの役割を果たすことで、新しいビジネスを創り出すビジネスエコシステムの構築を目指します。

以上

注1：マネージドサービス

サービスの利用に必要な機器の運用や管理、導入時に必要な機器の設置や設定などを一括して提供する一体として提供するサービスのこと。

注2：オープンAPI公開基盤「Resonatex（レゾナテックス）」

「Resonatex」は、各事業体を持つ Web API をオープン API としてインターネット公開するための基盤です。「Resonatex」を通じて各事業体のサービスを結びつけることにより、IoT やビッグデータといった従来得ることのできなかつた情報や分析を活用し、新しいサービスの創出や UI/UX 向上を促進し、ビジネスモデルの変革をサポートします。

※関連 Web：

「オープンな人工知能（AI）関連技術体系 Rinza」
<http://www.unisys.co.jp/solution/biz/ai/index.html>

オープンAPI公開基盤 Resonatex（レゾナテックス）
<http://www.unisys.co.jp/solution/lob/fs/resonatex/index.html>

2017年9月15日付ニュースリリース

日本ユニシス AI技術による知的エージェント構築環境のプロトタイプ開発キットとPoC支援サービスを販売開始

http://www.unisys.co.jp/news/nr_170915_rinzatalk.html

2016年11月28日付ニュースリリース

日本ユニシス オープンな人工知能（AI）関連技術体系「Rinza®」から生まれた「知的エージェントサービス」を提供開始

http://www.unisys.co.jp/news/nr_161128_ai.html

※RinzaTalk、ビジネスエコシステム、Resonatex、Rinza は、日本ユニシス株式会社の商標または登録商標です。

※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。